令和８年度　運営方針

１．子ども達の心身の健やかな成長及び会員の資質向上のために栄養教諭・栄養士としての専門性を生かし、会員一人一人が積極的に研究活動を行う。
２．本会の目標を達成するために会員相互の交流を深めながら、意欲的に活動を行う。
３．時代の変化に即した、望ましい学校給食と栄養士会のあり方を考えていく。

札幌市学校給食栄養士会の目指す子ども像

「食」を大切にし、健やかで豊かな食生活を送ることができる子ども

健　康「心身の健康を考えた望ましい食生活」を送ることができる子ども

持続可能　３つの「わ」を大切に、「持続可能な食生活」を送ることができる子ども
※３つの「わ」…環境の環（わ）・人との輪（わ）・和食文化の和（わ）

札幌市学校給食栄養士会の目指す子ども像については、2023 年度に札幌市より出された「第４次札幌市食育推進計画」の基本理念をふまえ、上記のように考えた。

人間の命の源は「食」であり、心も体も健やかで豊かな食生活を送ることができるようにするためには、子どものうちから望ましい食習慣を身に付け、継続していくことが大切である。

また、私たちの食生活は、自然の恩恵や「食」に関わる人たちの様々な活動に支えられて成り立っており、地球の限りある資源を大切に守りながら、環境にも配慮した生活をすることが求められている。

そこで、私たちが行う様々な取組を通して、「心身の健康と食」への理解を深め、「環境」「人」「和食文化」を大切にした健やかなで豊かな食生活を送ることができる子どもの育成に寄与したいと考え、具現化するために２つの視点からそれぞれに重点目標を考えた。

１　健康の視点から、「心身の健康を考えた望ましい食生活」を送ることができる子ども

生涯にわたって心身ともに健康な生活を送るためには、基本的な生活リズムや望ましい食習慣を子どもの頃からしっかり身に付けることが大切である。このことは、学校と家庭・地域全体で取り組む課題である。

栄養教諭や栄養士が中心となって食に関する指導を推進し、「心身の健康を考えた望ましい食生活」を身に付け、実践できる子どもを育てたい。

２ 持続可能の視点から、3つの「わ」を大切に、「持続可能な食生活」を送ることができる子ども

健全な食生活を送るには、持続可能な環境が不可欠である。そのため、食を支える環境を持続するため、環境の環（わ）・人との輪（わ）・和食文化の和（わ）を大切にすることが求められる。

環境の環（わ）…札幌らしい特色ある学校教育のテーマの一つに掲げられている。SDGｓ（持続可能な開発目標）にも食糧や環境等の問題についての目標が挙げられており、学校給食を通じて「食」に対する感謝の心を深めていくため、日々の給食や食指導を通じ、食料の生産から消費に至る食の循環を意識するとともに、環境への負荷にも目を向ける子どもを育てていきたい。

人との輪（わ）…私たちの住む北海道は、食料自給率約 200%の数字が示すように、豊かな食材に恵まれた食料基地であり、札幌市はこれらの豊富な食材の集積地である。そういった食材を支える生産者や関係機関、その食材を食べる消費者が互いにコミュニケーションをとれる環境を整え、農業や農産物に関する理解を深めていきたい。

和食文化の和（わ）…地域に伝わる和食文化は、文化的な豊かさを支える上でも重要であり、地域活性化や食料自給率の向上につながるため、食に関わる多くの人々の活動や伝統的な食文化を次世代に受け継いでいきたい。

※上記の２つの視点について、個別最適な学びと協働的な学びを一体化し、ICT や給食を効果的に活用して、食に関する学びを深めることができる子どもを育成することを目指していく。

令和８年度　活動の重点

朝食をしっかり食べる札幌の子どもを育成する

本会では心身ともに健やかな学校生活を送るためには、三食の食事をしっかりとることが重要であると考え、特に一日のスタートである朝食をしっかり食べる子どもを育成することに力を入れている。毎日朝食を摂取する児童生徒が１００%になることを目指しているが、令和７年度に行った栄養士会の食生活調査結果は、毎日朝食を摂取している札幌市の小学５年生が 81.6%、中学２年生が 77.1%であり、目標値の 100%には達していない。この結果から、朝食の重要性を理解させる授業や家庭への啓発などについて、さらなる研究が必要と考える。

朝食に限らず、食生活全般に関して様々な現代的課題を抱える子どもたちが、札幌市の教育が掲げる「自立した札幌人」を目指して心身ともに健やかに成長していくためには、朝食をはじめとする規則正しい食生活は欠かせないものである。

学校教育では、子どもたち自らが健康の保持増進について主体的に考え、実践する力を育てることが求められている。そのため、ICT を効果的に活用しながら「朝食をしっかり食べる子ども」の育成に継続的に取り組むとともに、生涯にわたり望ましい食習慣を身に付け、実践できるよう活動を進めていきたい。